

和歌山下津港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成17年3月

和歌山下津港港湾管理者

目 次

1. 変更理由	1
2. 施設計画に関する資料	2
2-1 小型船だまり計画	2
2-2 土地造成及び土地利用計画	5
3. 資金計画	7
4. 新旧対照図	7
5. 環境への影響と評価	8
6. 関係機関との調整	9

1. 変更理由

- (1) 遊漁船のための係留施設の不足に対処するため、内港地区において、小型船だまり計画を追加し、併せて土地造成及び土地利用計画を追加する。

2. 施設計画に関する資料

2-1 小型船だまり計画

(1) 施設計画

現在、和歌山下津港には遊漁船を係留するための小型船だまりが不足しており、港湾活動に種々の障害が生じている。そのため港湾活動の円滑化、港内航行の安全に資するため、内港地区において小型船だまりを以下のとおり計画する。

表 2-1-1 小型船だまり計画の概要

地区名	施設種類	内容	対象船	備考
内港地区	泊地	(-2m) 1.4ha	遊漁船 80 隻	既定
		(-4m) 2.3ha	作業船 30 隻	既定
		(-3m) 1.7ha		既定
		(-2m) 0.2ha	遊漁船 150 隻	追加
		(-2m) 0.7ha		追加
	物揚場	(-2m) 250m	遊漁船 80 隻	既定
		(-4m) 200m	作業船 30 隻	既定
		(-3m) 180m		既定
		(-2m) 170m	遊漁船 150 隻	追加
		(-2m) 400m		追加
	小型さん橋	5 基 (内 4 基完成)	遊漁船 114 隻 (4 基 : 91 隻)	既定
	ふ頭用地	0.1 ha	遊漁船 80 隻	既定
		0.2 ha	遊漁船 150 隻	追加
		0.5 ha		追加
		0.9 ha	作業船 30 隻 遊漁船 114 隻	既定

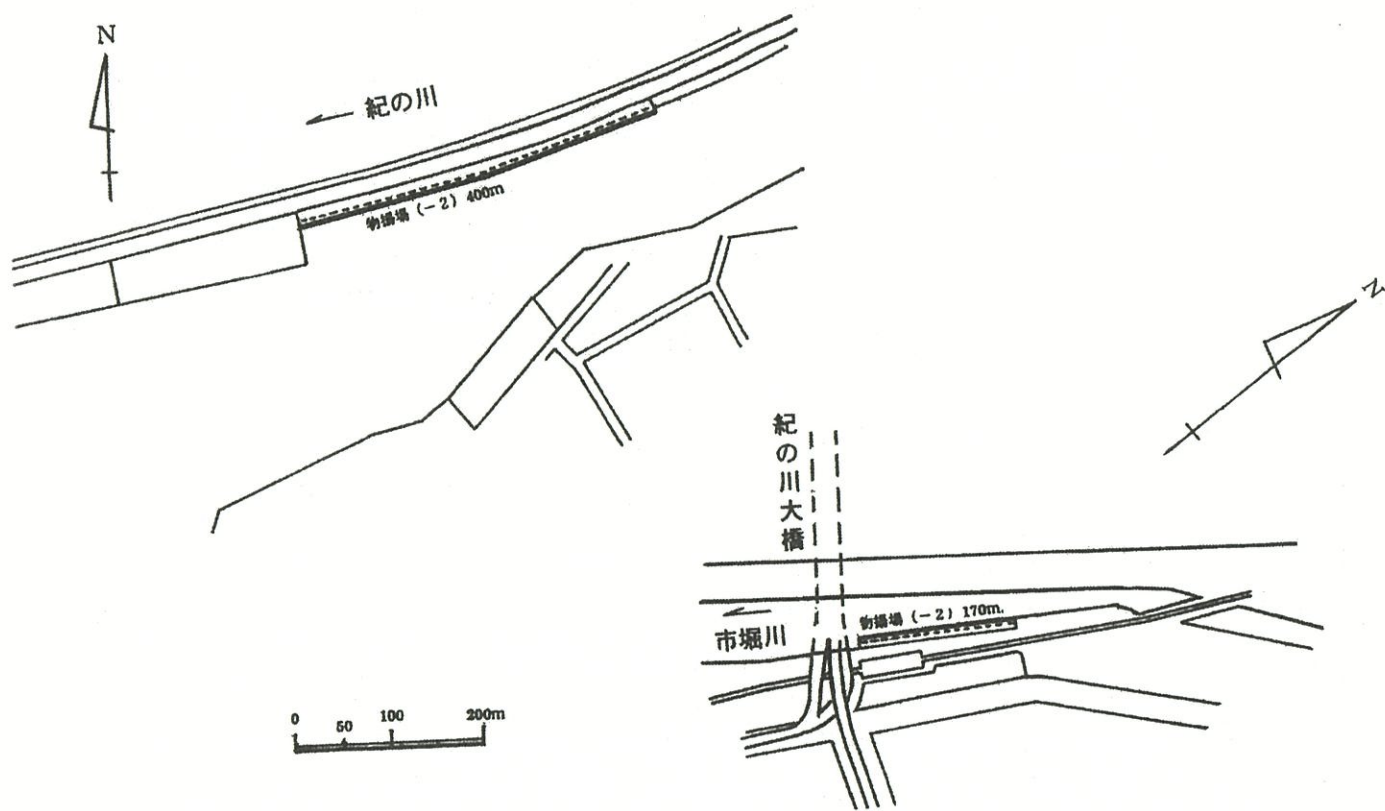


図 2 - 1 - 1 内港地区小型船だまり計画図

(2) 静穏度の目標

静穏度の目標は表 2-1-2 のとおりである。

表 2-1-2 静穏度の目標

	係留施設前面波高 ($H_{1/3}$)	稼働率
通常時	0.3m以下	97.5%以上
異常時	0.5m以下	—

(3) 静穏度の検討

静穏度の検討位置を図 2-1-2 に示す。

表 2-1-3、表 2-1-4 に示すとおり、常時、異常時ともに静穏度の目標値を満足する。

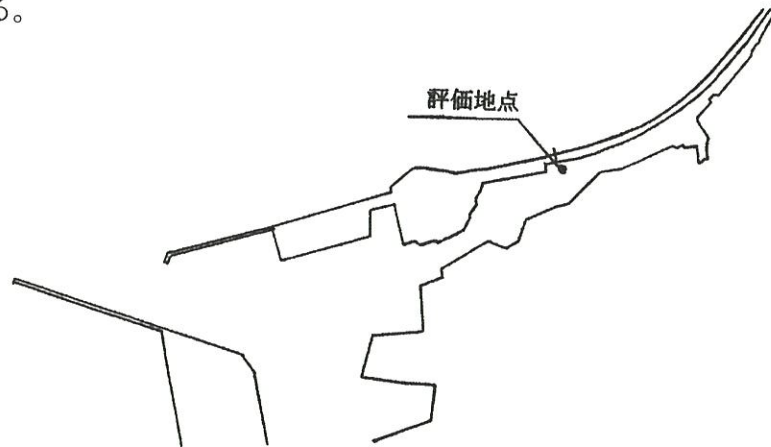


図 2-1-2 静穏度検討位置図

表 2-1-3 通常時における静穏度

波向き	荷役限界波高 0.3m以上の出現率 (%)
SSW	0.1
SW	0.5
WSW	0.0
W	0.1
WNW	0.0
NW	0.0
稼働率 (%)	99.3

表 2-1-4 異常時における静穏度

波向き	波高 (m)	Kd	H (m)
SW	6.57	<0.05	0.33
WSW	5.98	<0.05	0.30
W	4.50	<0.05	0.23
WNW	3.85	<0.05	0.19

2-2 土地造成及び土地利用計画

(1) 概要

内港地区における土地造成及び土地利用計画の概要は表2-2-1のとおりである。

表2-2-1 土地造成及び土地利用計画 (単位：ha)

地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	都市機能 用地	緑地	合計
内港地区	(0.3) 3.0	2.8	0.7	0.8	(0.3) 7.3

(注) 1. () は、土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

既定計画

(単位：ha)

地区名	ふ頭用地	港湾関連 用地	都市機能 用地	緑地	合計
内港地区	(0.4) 2.3	2.8	0.7	(0.2) 0.8	(0.6) 6.6

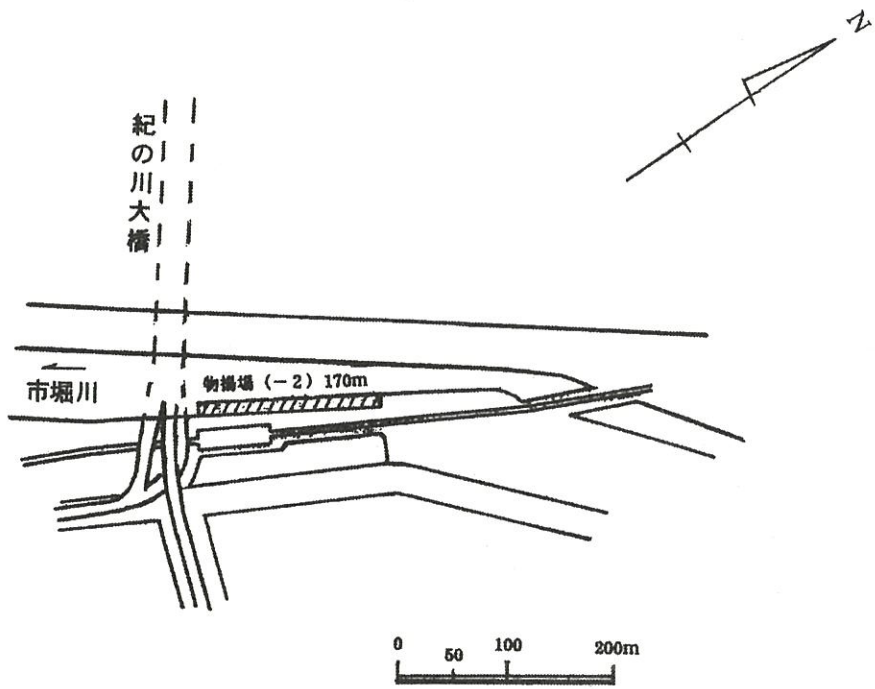
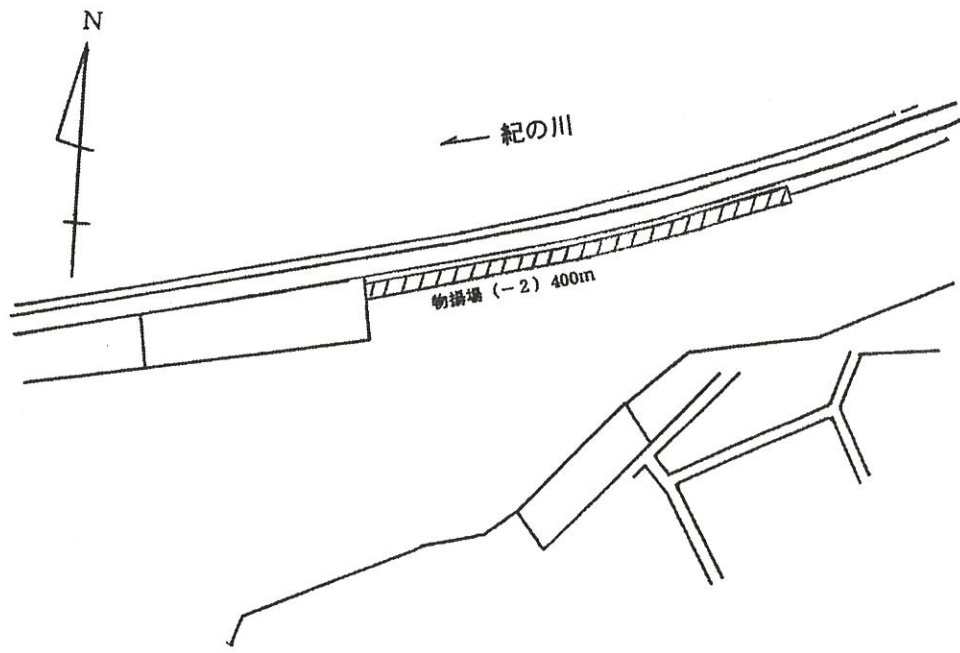
(注) 1. () は、土地造成を伴う土地利用計画で内数である。

(2) 今回計画における土地利用計画

小型船だまり計画に対応し、土地利用を表2-2-2のとおり計画する。

表2-2-2 土地利用計画

用途	面積	施設概要
ふ頭用地	0.2ha	エプロン、駐車場、植栽等
	0.5ha	



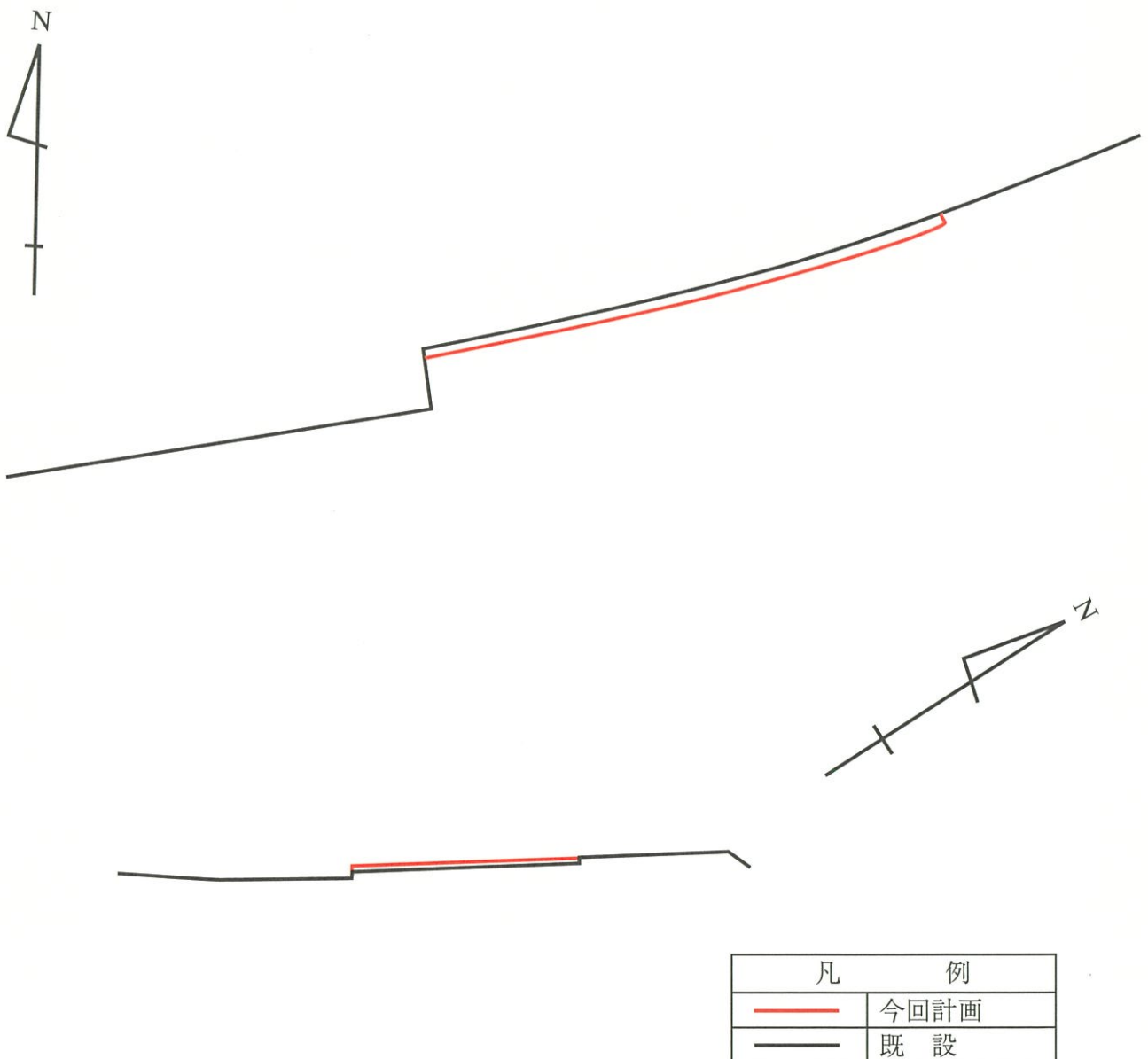
凡 例	
	ふ頭用地

図 2 - 2 - 1 土地利用計画図

3. 資金計画

地区名	種別	施設区分	施設名	単位	数量	事業費 (百万円)
内港地区	公共	係留施設	(-2m)物揚場	m	170	149
			(-2m)物揚場	m	400	301
		水域施設	(-2m)泊地	ha	0.2	12
			(-2m)泊地	ha	0.7	28
計						490

4. 新旧対照図



5. 環境への影響と評価

(1) 大気質・潮流・水質・底質・生態系、景観等への影響と評価

今回計画による埋立の規模は小規模であり、計画地は背割堤防波堤で囲まれた閉鎖水域となっていることから、今回計画による大気質・潮流・水質・底質・生態系・景観等への影響は軽微であると考えられる。

(2) 騒音・振動による影響と評価

今回計画により新たに発生する交通量は現況の交通量に比べて少なく、騒音・振動による影響は軽微であると考えられる。

(3) 漁業への影響と評価

潮流、水質、底質への影響は軽微であることから、周辺漁業に与える影響は軽微であると考えられる。

以上の検討から、今回計画による環境への影響は軽微であると考えられる。

6. 関係機関との調整等

別添資料参照

和歌山県地方港湾審議会名簿

平成17年3月1日現在
(敬称略、順不同)

委員の種類	氏名	職名	
第1号	黒田勝彦	神戸大学教授	
	濱田學昭	和歌山大学教授	
	辻本勝久	和歌山大学助教授	
	中田尚子	和歌山信愛女子短期大学教授	
	高山知司	京都大学教授	
	上村多恵子	京南倉庫(株)社長	
	谷奈々	和歌山社会経済研究所研究員	
	東恵子	東海大学短期大学部教授	
	第2号	田廣芳弘	和歌山県海運組合理事長
小野雄作		和歌山港運協会会長	
小池康雄		和歌山商工会議所副会頭	
岡本永興		全日本海員組合大阪支部長	
岩佐四郎		和歌山下津水先区水先人会会長	
吉田擴		御坊商工会議所会頭	
中川藤吉		日高木材協同組合理事長	
田中丸和男		和歌山県港湾協会副会長	
嶋洋一		和歌山県漁業協同組合連合会代表理事会長	
坂本敏夫		和歌山港湾福利厚生協会会長	
第3号		大橋建一	和歌山市長
		神出政巳	海南市長
	玉置三夫	有田市長	
	柏木征夫	御坊市長	
	藤本洋	下津町長	
	入江勉	美浜町長	
第4号	宇治田栄蔵	和歌山県議会議員	
	小川武	和歌山県議会議員	
	新島雄	和歌山県議会議員	
	中村裕一	和歌山県議会議員	
	尾崎要二	和歌山県議会議員	
	富安民浩	和歌山県議会議員	
第5号	飯島健司	大阪税関長	
	谷口克己	近畿運輸局長	
	児嶋峯男	田辺海上保安部長	
	小吹秋良	和歌山下津港長	
	藤本貴也	近畿地方整備局長	
第6号	小佐田昌計	和歌山県副知事	